

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 6年 3月 29日

公表:令和 6年 4月 1日

事業所名

あしあと

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	1	三分割された室内を生かし、学習・遊び等に応じて適材適所の環境を整えている。	しかし、利用人数の多い時は、狭く感じる、公園や、広場にて安全確保をしつつ、遊びを通して運動させていく。
	2	職員の配置数は適切である	4			児童福祉法に基づいて配置しているが、利用者の環境によっては、指導員の加配が必要。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	3	階段に手すりをつけている	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	1	3		申し送り、職員会議を通して、職員で共有・実施。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	2	2		支援の向上、満足度の充実を目指し、独自のアンケートにて保護者の声を聴きやすくしていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			HPにて公開
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4			次年度は、より多くの研修に参加し、職員の向上を目指したい。職員会議、研修の機会を増やし、資質向上を図る。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4			期間内での計画の更新に努め、子どもと保護者のニーズや、課題に沿った計画を作成していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	1	危険予測の習慣化 特性の落とし込み	独自シートにて作成・掲示して見える化実施。(年1回更新)
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	1		話し合い(ミーティング)を持ち、全職員の意見を取り入れている。意見を出し合い、どう活動するか考えている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	2	2		何をしたら、どうしたら等、日々の様子を見ながら職員で考えている。もっとたくさんの活動プログラムを提示していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		4		平日での活動プログラムを充実させていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4			保護者との連携を、より密に行い、信頼関係を構築していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4			支援中であっても、声を掛け合い、臨機応変に対応している。送迎の流れ、支援内容を確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4			グループLINEを活用し、報連相にて共有。支援、子供達の様子、次の日の確認事項を打ち合わせしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4			支援記録を徹底に努めている。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4			半年に一度行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	2	2		意識的に複数組み合わせを実施する必要がある。	

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		児童発達支援管理責任者と指導員の2名参加を基本としている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	3	1	担任や、保護者と連携を取り、適切に行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		4	受け入れ不可。 現段階で、受け入れていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	3	必要に応じて、情報共有に努めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	2	必要に応じて、情報共有に努めていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	3	必要に応じて、助言や研修を受け入れていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	1	活動プログラムに定期的に組み入れ、実施している。 来年度は、児童クラブとの関わりを持てるよう、努力していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	3	機会があれば、参加したい。 機会があれば、参加の意思はある。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		電話やLINEにて保護者との連絡手段を用意しており、いつでも連絡を取り合う環境を整えている。
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	1	ご相談に応じて、助言・提案している。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	1	契約時に実施。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		電話やLINEにて保護者との連絡手段を用意しており、いつでも連絡を取り合う環境を整えている。 相談内容を、職員間で共有し、より適切な支援を心掛けたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4	今後計画していきたい。 交流の機会を今後計画していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4		電話やLINEにて保護者との連絡手段を用意しており、いつでも連絡を取り合う環境を整えている。更に、職員間で共有し、迅速対応・改善に努める。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		HP、SNSを通して、発信に努めている。もっと活動内容を充実させていく。 来年度は、もう少し回数を増やしていきたい。
	35	個人情報に十分注意している	4		遵守している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	2	2	視覚化、見通しを意識した環境づくりに努める。 LINEを活用するなど、保護者が話し易い様配慮している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		4	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		4		今後、マニュアル化を周知していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			避難訓練の種類や回数を増やしていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		4		研修の機会があれば、参加していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	1	3		対象になる利用者がいないが、今後必要に応じて説明していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1		保護者と連携を取り、保護者が用意するもの以外は与えないが、万が一の応急対応をする。(キット有)保護者より説明を受け、対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	1	3		マニュアル化に努めていく。 今後、マニュアル化に努める。